

新聞を読み、ポスター作りに励む生徒ら



武岡中学校(鹿児島市)

伝え合う力 育成図る

お気に入りの記事を紹介するプリント掲示や５紙をテーマごとに読み比べたポスター作りに全校で取り組む。実践校４年目。国語科の竹山美穂子教諭は「読解力だけでなく、伝え合う力を養いたい」と力を入れる。

３月上旬、国語の授業で２年３組の生徒は「新型コロナウィルス」「スポーツ」など分野ごとに記事を切り貼り、ポスター製作に取り組んだ。知らない言葉を辞書で調べたり、友人と話し

合った、積極的に意見交換する姿が見られた。昨年１０月から新聞記事をクリック形式にしたプリント掲示も開始。出題は、読み込んで理解することが求められるため楽しみなが読む生徒も徐々に増えてきた。東美幸さんは「授業をきっかけに新聞に関心を持つようになった」。上栗悠生依さんは「新聞はじっくり読むことができて良い。話題が豊富で面白い」と話した。(鹿児島夏)

図書室で新聞を読み込む生徒



楠隼高校(肝付町)

読み比べ 考え深める

実践校２年目。生徒は全教室に毎日配られる新聞に普段から接しており、本年度は主体的な読み比べがテーマ。岩脇祐希教諭(39)が担当する２年生の授業では、30人が読み比べを通して、国際政治について考えを深めた。

２月後半の計４こまを活用。７班に分かれ、班ごとに昨年の米大統領選に関して「メディアがバイデン氏の味方ばかりしているのでは」「政策が日本に与える影響」などの調査テーマを設定。図書室で保管する過去２年分の新聞５紙から関連記事を探して読み込み、検証した内容を発表した。

栗田淳聖さんは「新聞によって見出しが全く違うと分かった。記事もしっかり読まないと、見える世界が変わると思った」。岩脇教諭は「記事の背景を考え、自分なりの考えを持つ姿勢につながる。次の単元でも実践したい」と話した。(片野裕之)